ダイハツ系連合健康保険組合
理事長　藤川　公一
（明石機械工業株式会社　顧問）

新年にあたり

新年、明けましておめでとうございます。

被保険者、ご家族の皆さんには、お健やかに新しい年をお迎えになられたことと存じます。

昨年の我が国の経済は、一部産業で若干回復の兆しが見られたものの、全般では一昨年より続く世界経済の低迷に引きずられ厳しい状況のまま推移した一年であったと感じています。

そのような背景の下、わがダイハツグループも企業や一般消費者の皆さんのエコロジー志向の高まりや、環境に優しい軽自動車を中心とした販売ということを加味しても、非常に厳しい年でありました。しかしながら他メーカーに比べるとその落ち込みは少なく、「軽シェアトップ」を維持できたことは被保険者の皆さんや各事業主の弛まぬご尽力の結果であると思います。

一方、昨年8月に行われた衆院総選挙において民主党が政権交代を果たし、私たちの生活にも大きな変化が起きた年でもありました。

健康保険組合を取り巻く状況も政権交代に伴い、我が国の社会保障政策が大きな転換期を迎えたことによって平成22年度以降の事業運営や財政面にも多大な影響が出ると予測されます。

平成20年度にスタートした新しい高齢者医療制度により、全国約1、５００の健康保険組合は保険料収入に対する高齢者医療への負担割合が過去最高の44・3％に達し、それに伴い平成20年度決算では3、０６０億円という巨額の赤字に陥りました。更に予測では平成21年度の赤字額は6、１００億円を超えるという危機的状況に至っています。

当健康保険組合も、健康保険法の改正による総報酬制への移行により、被保険者の皆さんや、加盟事業所のご負担増のお蔭で、積立金（法定準備金や別途積立金）の保有による財政基盤の強化ができたのも束の間、経済不況による被保険者の皆さんの収入減に比例して、保険料収入が大幅に減少するとともに、前述の新しい高齢者医療制度への過重な負担と歯止めがかからない医療費の増加によって、財政は悪化の一途を辿っています。

平成21年度は経常収支でも約7億4、３００万円もの赤字が予想され、この赤字を埋めるために積立金を取り崩しての対応を余儀なくされており、財政基盤が早くも崩れ始めています。

それに加えて、前述の社会保障政策の大きな転換の内容は、長寿医療制度の廃止に伴う新制度への移行や被用者保険と国民健康保険の段階的統合による地域保険としての一元化などの未確定な部分と、年間2、２００億円の社会保障費削減を撤回せざるを得ない状況や平成22年度の診療報酬の引き上げ改定など健康保険組合にとって逆風となるものが多く含まれています。

特に、医療保険制度の統合と一元的運用については、我が国の健康保険制度発足以来、その中核として医療費の適正化や加入者の皆さんの健康保持増進のための保健事業の充実を図ってきた健康保険組合の存立意義を否定するものであります。

当健康保険組合におきましても、被保険者の皆さんや加盟事業所との一体のもと、真摯な姿勢で経費の節減を推進するとともに、引き続き被保険者・ご家族の皆さんの健康をお守りし、ダイハツ系連合健康保険組合に加入していて良かったと思っていただける各種保健事業の実施に努め、常により一層のサービス向上に向け取り組んできたところであります。

今後も、この今までに無い難局を乗り越えるため組合会議員・理事・組合事務局一丸となって努力してまいりますので、被保険者の皆さん、事業主各位、各社労働組合におかれましては、格別のご協力、ご配慮をよろしくお願い申し上げます。

昨年は、新型インフルエンザが大流行し、予防接種も含め医療にかかられる方が大勢いらっしゃったのではないかと思います。新型インフルエンザについては、今年もまだ油断できない状況が続きますが、被保険者・ご家族の皆さんには日々の健康にご留意いただき、健やかで素晴らしい一年となるよう願っています。

最後になりましたが、皆さんのご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。